



藤本 みのる 通信

Vol 269

2017年8月14日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3

電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

市議会議長会議員合同研修会

市議会議長会議員合同研修会が10日開催され、「議会の政策思考力について」と題し、宮脇淳・北海道大学公共政策大学院教授の講演会が開かれました。山梨市長逮捕の直後で、一様に厳しい表情がうかがわれましたが、「民信なくば立たず」です。クリーンな政治は大前提ですので、他山の石としたいと思います。

講演会では、政策を作る際、大きな環境変化（①少子高齢化社会②グローバル社会）を認識すべきだとして、2035年人口ピラミッドと成長産業の空洞化が紹介されました。

また、議会が政策を考える意義として、①行政側の政策体力が低下していること、②「議会主義の危機」克服があげられました。「議会主義の危機」とは、行政のチェック機関としての議会の機能が証拠や議論を排除した批判にとどまる、あるいは、無秩序な情報に翻弄される状況に陥り、議会自身が「烏合の衆」の状態に陥ることとされ、だから、政策内容はもちろんだが、それを生み出し議論を支える政策思考の質的改善を図ることが求められていると。

時宜を得た講演会だと感じました。

夏読書2冊

『閉じゆく帝国と逆説の21世紀経済』
水野和夫、2017.5、集英社新書

水野氏は、三菱UFJモルガン・スタンレー証券チーフエコノミストを経て、内閣官房内閣審議官（国家戦略室）などを歴任、現職は法政大学教授。

「アメリカとともに成長教の茶番劇を演じ続けるのか…日本は危機の本質に立ち戻って考えなくてはならない」（著書より）

『現代史とスターリン』

～「スターリン秘史－巨悪の成立と展開」が問いかけたもの

不破哲三、渡辺治、2017.6、新日本出版

現代日本の政治経済研究の第一人者である渡辺治一橋大名誉教授が、不破哲三氏の著書（「スターリン秘史」）の意義を深めるため、著書が問いかけている問題を整理しながら不破氏と意見交換する内容。渡辺氏は著書が「現代史の見直しを問いかけている」としている。

【藤本みのる活動日誌】

8月 8日(火) 市議会広報委員会、大雨被害等確認

8月10日(木) 市議会議長会議員合同研修会

8月13日(日) 八王子日本共産党後援会夏の交歓会(ゲスト)